

## 平成24年度北海道大学情報基盤センター共同研究成果報告書

1. 研究領域番号 A6 教育情報メディア
2. 研究課題名 教育過程における学習者成果物の電子書籍化の検討と展開
3. 研究期間 平成24年4月23日 ～ 平成25年3月31日

## 4. 研究代表者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
小松川 浩	千歳科学技術大学 総合光科学部	教授	

## 5. 研究分担者

氏名	所属機関・部局名	職名	備考
野口 孝文	釧路高等専門学校 電気工学科	教授	
岡部 成玄	北海道大学 情報基盤センター	特任教授	
山本 裕一	北海道大学 情報基盤センター	助教	
布施 泉	北海道大学 情報基盤センター	教授	

## 6. 共同研究の成果

教育の情報化が国策として進められ、ユビキタス社会の中で、学びのあり方が質的に変わりつつある。初等中等教育では、電子黒板（インタラクティブ・ホワイト・ボード等）やタブレット PC を用い、教育コンテンツの電子化や ICT 環境を用いた学び合いの環境が構築され実践が進んでいる。

私たちはこれまで、教育学習支援システムの開発・運用、ならびに ICT を活用した教育の質保証や学習のあり方についての研究を進めてきた。

本研究は、上記のような教育の情報化の進展状況を踏まえ、特に、高等教育における教育・学習過程で生ずる学習者の成果物の電子書籍化について検討することを目的としたものである。また、教育活動の中で、以前の学習者が開発した教育コンテンツを部品として取り込み、新たな教育コンテンツを開発するといった学習者指向の教育学習の手法について検討を行うことを目的としている。教育の情報化における最新の研究状況と特に道内の教育実践の状況を知るために、関連の研究者や初等中等教育における教育実践者等を講師に招き、研究会等を開催した。

本研究での成果を以下にまとめる。

## 1. 教育実践者による取組の紹介

2012年7月14日(土)に北海道大学情報教育館において、「地域で連携した ICT 活用教育の取り組み」と題し、高大連携の取組事例の紹介を行った。本事例紹介は、教育システム情報学会北海道支部の設立記念会の一部であり、本会の中で、本共同研究プロジェクトとしての取組を連携させたものである。趣旨説明を研究代表者から行い、数校の教育実践の取組が紹介された。特に、千歳市立勇舞中学校の大西智彦教諭の取組では、電子黒板を使う長所等を紹介され、教育現場における効果的な電子黒板の使用法などを学んだ。

(研究成果のつづき)



「地域で連携した ICT 活用教育の取り組み」における事例紹介講演の様子

## 2. 電子書籍・LMS に関する講演会の実施

2013 年 2 月 22 日、電子書籍について具体的に学ぶために、電子教科書と活用携帯と標準化の対象、eラーニング標準規格と今後について、千葉工業大学の仲林先生に講演をお願いした。また、学習者志向の学習教材の再利用と再編集の考え方という視点で、IntelligentPad, Webble 等の学習支援のツールに関し、時代背景と成果を釧路高専で実際にお使いになっている野口先生の講演会を実施し、効果や課題等の認識を深めた。